

EKLY REPORT

ROTARYCLUBOF hakusanishikawa



がバナー方針「**一步前進しよう(one step ahead)**」 クラブ基本方針「**この地球を優しさで満たそう・・・未来ある子ども達のために**」

白山石川ロータリークラブ

2019年9月26日 No.848

会長:武藤一彦 幹事:織部資子

クラブ会報委員長:永瀬喜子 副委員長:藤本和久 委員 五十嵐隆介・林 哲也・多田 茂

事務局/白山市西新町 159-2 松任産業会館 4階 TEL076-274-2907 FAX076-274-2908

Mail:info@hakusanishikawa-rc.jp HP://www.hakusanishikawa-rc.jp

◆会長挨拶 (武藤一彦会長)

最近、首の回転が制限される症状に悩んでいたのですが、意を決して知り合いの整形外科の先生の診察を受けました。一通りの整形外科的診察を受けた後、その結果から考えられる病態について解説がありました。先生のお話では、年齢や運動不足から足の力が弱っているために、歩くためのバランスを手を使って取っているとのこと。その為に手の筋力に負担がかかり、その負担が肩の筋肉に及んで、首の回転が制限されているのではないかという事でした。首が回らないという事は、一般には金回りが悪くなっていることを表すのですが、そんな言葉は微塵も聞かれずただひたすら整形外科的な真実を述べられました。私なら必ず一言言いそうです。

さて、治療ですが、やおらエコーの機械の横で背中中の検査に取りかかりました。説明では肩の堅くなっている筋肉に薬を注射するとのこと。注射嫌いの私としても、拒否も出来ず痛みを耐えようと決意し、得体の知れない液体の注入を体験しました。幸い針は細く耐えうる痛みで安堵しました。その後、経過が良く首の回りも懐と関係なく改善したようです。病名は何ですか?とお聴きしたところ、考えあぐねた末に「頸椎捻挫」かなと言われました。皆さん、日頃、足腰の訓練に怠りなくお過ごし下さい。

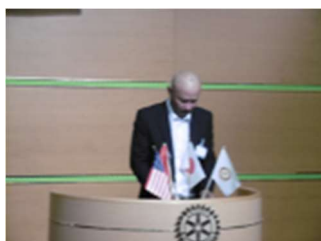


◆お客様の紹介

- ・2019 学年度米山記念奨学生
迪力熱吧 博力東 (ディリガ ボリドン) さん
- ・2019~2020 年度受入交換留学生
リヴァイ・ハウザーさん

◆『ロータリーの友』

紹介 (本島大昌)



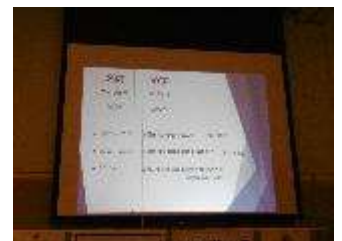
◆幹事報告 (織部資子 幹事)

- ・9/20 派遣交換留学生 越野蒼梨さんより
クラブヘメールが届く
写真は掲示板をご覧ください。



◆卓話

米山記念奨学生 迪力熱吧 博力東 氏 (白山石川 RC)
演 題『架け橋者：シルクロードから日本まで』



◆結婚記念祝と誕生日祝の発表 (親睦委員会)



ロータリーは 20 世紀初頭の、自由主義経済が沸騰し、小恐慌が繰り返される景気変動の激しい時代に米国のシカゴで誕生しましたので、当然そうした時代背景や米国の文化的・宗教的・思想的背景を踏まえて理解する必要があります。

ロータリー理念を、M・ウェーバーが論じたような、「プロテスタンティズムの倫理」との関連で論じたり、ギリシア・ラテンの西洋思想やバイブルに遡ったりして論じる人もいます。

一方、東洋思想、特に儒教や仏教との類似を指摘する人もいます。ロータリーの理念「奉仕の理想」の意味については、下*に示すとおりです。

◆出席報告 (西田直樹 副委員長)

- 出席率： 78.79%
- 出席者： 25 名 /34 名
- 出席補填： 1 名
- 出席免除者： 1 名
- メーキャップ： 18 名



- ・9月21日 地区国際青少年交換委員会並びに 2020-21 年度派遣交換留学生選考会 永瀬喜子
- ・9月22日 RLI パートII 藤本和久、小柳善裕、野澤誠治、織部資子、多田茂
- ・9月24日 白山 RC 例会 山本篤

◆ニコニコボックスの発表(中島育子 副委員長)

武藤一彦会長：ディリラさん、卓話ありがとうございました。勉強・研究大変ですね。中国と日本の架け橋として頑張ってください。

野澤誠治：ディリラさん、明日は京都で学会の発表会だそうで、ガンバってね!! 今日卓話、ありがとう。

松田和仁：先日の月曜日に「パパ・ママ」事業の件で、永瀬さんのラジオ番組に織部さん、新さんと私で出演させていただきました。



初めてラジオのスタジオ潜入で貴重な時間を過ごせました。永瀬さん、ありがとうございました。林哲也：誕生日のお祝い、ありがとうございました。所要の為、早退致します。

*ロータリーのサービス理念（「奉仕の理想」）
「超我の奉仕」「も良く奉仕する者、も多く報いられる」
(二つのモットー) →サービスを自己の利益や都合より優先させよう。利益はサービスの結果である。相手のために善のサービスをすれば、結果として大の金銭的な利益と、大きな精神的満足が得られ、自分も幸せになる。サービスとは、世のため人のために尽くすこと、社会に役立つ価値を提供すること。

私も、日本の思想家・宗教家や経済人の言葉、また古くから伝わる商家の家訓などの中に、「ロータリーと同じことを言っている」と感じる事が多々あります。これは、世界思想の中における、ロータリー理念の普遍性や、「正しい生き方」「善き生き方」に対する世界共通の考え方を示しているのではないかと思います。

今日は、そういう観点から、日本近世の商人道の中から、ロータリー理念と通じると私が考える事例をいくつかご紹介します。

近江商人の「三方よし」 売手よし 買手よし 世間よし
この言葉の出典は定かではありませんが、近江商人の心構え・行動規範を後世、要約したもののようなようです。近年、CSR（企業の社会的責任）論の文脈で先駆的事例として引用されることが多くなっています。

三方よしの中でも、「世間よし」は、国（藩）を超えて他国に行商し、出店しようとする近江商人が、それぞれの土地（村や町などの地域共同体）で信用を築かなければ継続的な取引ができなかったことを示しています。

つづく

本日合計 6,500 円 今年度累計 175,000 円

◆ちょっと読んでみてください

日本の商人道とロータリー理念(1)

ロータリーでは「奉仕」と「親睦」が大事だ、とはよく言われることですが、「奉仕とは仕え奉ることだから、…」とか「親睦とは親しく睦みあうということだから、…」とか、日本語の分析をいくらしても、ロータリーの理念を理解することにはなりません。「奉仕」の原語 Service や「親睦」の原語 Fellowship の意味を捉えないと、ロータリーは理解できません。